

小・中学校の授業時間の増加について

森田 常夫議員

・質問 学力低下の要因として、授業時間の減少が挙げられるが、秩父市では、調査を行った結果、市立小・中学校の夏休みを今年から一週間短縮すると決定したそうである。

そこで、当市は、授業時間の減少と学力低下との関係についてどう認識し、どのような対策を図っているのか。
・答弁（教育長）
羽生市においては、夏休み中の林間学校や家庭訪問、社会体験チャレンジ事業、また学習に課題を持つ児童・生徒に対しては、冷房設備のある教室を利用した個別学習など学力補充を行い、授業時間

確保している。このため、文部科学省が定めている標準授業時数をかなり上回っている状況にある。

近年懸念される学力低下傾向に対策を講じるには、いくつかの条件が必要となる。第一に、テレビの視聴時間や睡眠時間、朝食をきちんととる等の正しい生活リズムの上で立つた家庭学習。第二に、学習に対する目的意識や学ぶ楽しさ、学習方法の工夫など、学習への意欲を高めていくこと。第三に、体験学習等を通



南小学校の授業風景

した生き方指導、自学自習の態度の育成など、家庭、地域と連携した学校教育の充実である。

これらを実現するには、今後積極的に授業を公開し、外部の評価を取り入れるなどして、より一層開かれた学校をつくる必要がある。
今後、教育委員会としては家庭や地域社会と連携を図りながら、本市の子どもたちの教育の充実及び健全育成を目指していきたい。

その他の質問
統一地方選挙における開票事務について

地域医療体制の整備について

小野 幸夫議員

・質問 羽生市の防災計画には、救急医療機関として羽生総合病院の名前が載っているが、過去には同病院が総合防災訓練に参加したことはない。

事前のシミュレーションのためには医療機関等の全体的な訓練を行っておくべきだが、今後の広域の防災訓練の実施
について伺う。
・答弁（市民福祉部長）
羽生市では、市民による自主防災組織を立ち上げるために、平成十七年度から地域別防災訓練を実施し、市民自らが防災訓練を体験することを目指している。
負傷者を医療機関へ搬送す



新郷地区防災訓練（平成18年7月）

る必要が生じた場合、軽傷者については自主防災組織及び付近の住民が自家用車等で医療機関へ搬送する、重傷の患者については止血等できる限

りの応急手当を行い、救急車で搬送することになっている。今後は自主防災組織と地域の企業や福祉関連施設、そして医療機関との連携を視野に入れるとともに応急手当の方法等、訓練内容や実施形態を充実させていきたい。その中で、医師や看護師の指導を要する場合の協力依頼や医療機関の訓練参加メニュー、また過去の被災地における医療機関の対応状況等の情報交換なども進めてまいりたいと考えている。

平成十九年度に地域別の防災訓練は市内を一巡する。その後は、各地区の防災組織の最小単位での初期的な対応訓練、そして医療機関も含めた全体での訓練、というような地域及び広域的な訓練を組み合わせながら、災害に備えた実効性ある体制をつくってきたい。

その他の質問
・献血の推進と、臓器移植への理解について
・グラウンドワークについて